

杉ノ原伸夫先生のご逝去を悼む

羽角 博康（気候システム研究センター 助教授）

杉ノ原伸夫名誉教授（地球惑星科学専攻・海洋物理学）は、去る2007年1月29日（月）に享年66歳でご逝去されました。先生は1973年から1991年まで地球物理学科で教鞭をとられた後、2001年の退官までを気候システム研究センターで過ごされました。最期は海洋研究開発機構・地球環境観測研究センターのセンター長現職のまま、多くの人々がまだ先生のご指導を望む中での惜しまれるお別れでした。

先生は日本における海洋数値モデリン

グの先駆者であり、沿岸湧昇など海洋現象の解明に波動力学の手法をもち込んだ先駆者でもありました。後年は深層を中心とした海洋大循環を研究対象とし、地球温暖化等の気候変動研究を推進されました。「気象ではなく気候のことを本当に考えているのは海洋の人間だ」と、よくおっしゃっていました。

大きな研究プロジェクトを率いてもこられました。ご本人は一研究者を望まれ、退官後1年半のフロリダ滞在中にいただいたメールには、研究三昧を喜ぶ



■ 故・杉ノ原伸夫名誉教授

姿が滲み出ていました。そして、研究者である以上に教育者であったと思います。数多くの門下生が海洋物理学の第一線に立っております。後をわれわれにお任せいただき、どうぞ安らかにお眠りください。

東京大学大学院理学系研究科・博士学位取得者一覧

（2006年12月，2007年1月，2月）（※）は原著が英文（和訳した題名を掲載）

種別	専攻	申請者名	論文題目
2006年12月11日付学位授与者（2名）			
課程博士	物理学	道正新一郎	中性子過剰核 ^{23}F の陽子殻構造（※）
課程博士	化学	中嶋 隆浩	細胞から放出されるピコモル濃度領域の一酸化窒素の動態を可視化するセンサー細胞（※）
2007年1月22日付学位授与者（1名）			
論文博士	物理学	西村久美子	第三高調波励起非共直線光パラメトリック増幅による近紫外—可視域サブ5フェムト秒光に基づく設計と開発（※）
2007年1月31日付学位授与者（1名）			
課程博士	物理学	倉田 正和	BES-II 実験による測定データを用いた $J/\psi \rightarrow \Lambda \bar{\Lambda}$ 過程の研究（※）
2007年2月28日付学位授与者（1名）			
課程博士	地球惑星科学	引間 和人	波形インバージョンによる3次元速度構造モデルの構築とそれを用いた震源過程解析

「Visit 東大理学部訪問プログラム」の開始

来年度から、高校生が理学部の研究室を訪問する「Visit 東大理学部訪問プログラム — 最先端の研究室を見に行こう」をスタートします。これまで、研究室の見学を希望する高校は多く、年10数件程度を、申し込みのつど、受け入れて来ました。今回の企画は、より広く研究室訪問を公募し、意欲のある高校生に充実した訪問体験をしておらうと

いうものです。年3回（1月，5月，9月）の締め切りを設けて、訪問を希望する高校にプロポーザル（訪問計画書）を出してもらい、それを広報委員会で審査して年10数件程度を受け入れます。受け入れにあたっては、広報室の支援、担当研究室へのTAの措置などを含め、受け入れ側も十分な対応ができるように配慮します。これにより、高校生には充実した

広報委員長 山本 智（物理学専攻 教授）

訪問をしていただくとともに、担当研究室の負担も軽減できると考えています。

この企画はサイエンスカフェとならんで、理学系研究科の高校生に対する広報活動の2本柱のひとつです。研究室に訪問希望が出された場合には、ぜひ積極的に対応していただきますよう、よろしくお祈りします。

第 11 回東京大学理学部公開講演会のお知らせ

理学系研究科・理学部では、来たる 4 月 20 日（金）に公開講演会を開催します。タイトルは「挑戦する理学～自然の謎に迫る～」。

今回は科学における未解決な問題を中心に、江口徹教授「アインシュタインの夢と超弦理論」、程久美子助教授「生命の神秘にせまる RNA」、山内薫教授「光の場の中の分子」の 3 演目で講演します。

日 時 : 2007 年 4 月 20 日（金） 18:00～20:30（17:00 開場）
会 場 : 東京大学駒場キャンパス 数理科学研究棟大講義室
参加費無料 : 事前申し込み不要 240 名先着（超過の場合は講演会場外にて生中継上映も予定）
主催・問い合わせ先 : 東京大学大学院理学系研究科・理学部 TEL: 03-5841-7585
 E-mail: shomu@adm.s.u-tokyo.ac.jp URL: http://www.s.u-tokyo.ac.jp/PL11/

あとがき

年度末の理学部ニュースをお届けします。今号には、読みごたえ十分な記事が二つ揃いました。ひとつは、佐藤副学長にご寄稿いただいた、山川健次郎元総長に関する特別記事。当然と思いがちな大学の自治が、こうした先人の努力の賜物であることが痛感されるとともに、いま大学の自治が別の形で危ういのでは、という懸念も呼び起こされます。もうひとつは、須藤先生の「物理学専攻の魅力を語る」。連載の締めくくりを飾るにふさわしい、重厚で思想性に富む内容です。

この 3 月にはまた、山本智・広報委員長が 2 年の任期を満了されます。従来からの公開講演会、オープンキャンパスな

どに加え、日経 BP 企画、サイエンスカフェ本郷など、新企画を次々と打ち出し、理学系の広報活動をいっそう活発にしてくださいました。この間に「理学部ニュース」は東大生協の全面的なご協力をいただき、本郷の生協食堂や、駒場の生協購買部に置かせていただくことができ、毎号の印刷部数も 5000 部を越すようになりました。編集委員会メンバーは全員、留任して来年度もニュース編集の作業を担当させていただきます。次号（5 月発行）は表紙に理学部ロゴマークを掲載し、新しい表紙の色で発行の予定です。

牧島 一夫（物理学専攻 教授）

第 38 巻 6 号

発行日：2007 年 3 月 20 日

発行：東京大学大学院理学系研究科・理学部

〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1

編集：理学系研究科広報委員会所属 広報誌編集委員会

牧島 一夫（物理学専攻）maxima@phys.s.u-tokyo.ac.jp

横山 央明（地球惑星科学専攻）yokoyama.t@eps.s.u-tokyo.ac.jp

上田 貴志（生物科学専攻）tueda@biol.s.u-tokyo.ac.jp

米澤 徹（化学専攻）yonezawa@chem.s.u-tokyo.ac.jp

渡辺 正昭（庶務係）mwatanabe@adm.s.u-tokyo.ac.jp

加藤 千恵（庶務係）c-kato@adm.s.u-tokyo.ac.jp

勝見 順恵（庶務係）katsumi@adm.s.u-tokyo.ac.jp

e-mail: kouhou@adm.s.u-tokyo.ac.jp

HP 担当:

柴田 有（ネットワーク）yuu@adm.s.u-tokyo.ac.jp

HP & ページデザイン:

大島 智（ネットワーク）satoshi@adm.s.u-tokyo.ac.jp

印刷・・・三鈴印刷株式会社